

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2023年度 優秀園 審査委員特別賞
学校法人岡崎学園 荒尾第一幼稚園

本園は、子どもが自分たちの思いを実現しようとする態度、友達と協力し課題を解決しようとする態度を「科学する心」と捉え、子どもたちの想像やイメージと、アートやものづくりの世界を融合させながら、ダイナミックな遊びを展開されています。保育者は、子どもたちが「やってみたい」「使ってみたい」「面白そう」と興味関心を持ち、「科学する心」が動き出すような環境設定の重要性と、子どもにとって大切な体験の本質をしっかりと認識されています。

絵本『100かいだてのいえ』を読んだ子どもたちの「自分たちも“100かいだてのいえ”をつくりたい」という願いから、どんどん高くなる家に必要なエレベーター、空、太陽、宇宙空間の制作へと興味を広げ、保護者を招いた夏祭りでの、保育者手作りのプロジェクションマッピングへと発展する事例は創造性があり、遊びのプロセスを大切にした大変ユニークな取り組みです。また、さまざまな素材を使って描く、OHPで写す、お話を作る、映画を作る、タブレットを用いてBGMを作曲するなど、子どもたちが自分のこれまでの経験を活かしながら試行錯誤し、「やってみたい」を自ら実現させ、園が考える「科学する心」の育ちへと繋げています。

アートやものづくりは、ともすれば「キット」的に題材や手法を提供しがちですが、保育者が柔軟に、子どもたちにとって必要な機会、材料や素材、道具、環境を整える様子は、多くの園の参考になるとして評価されました。子どもの発想から、ものづくりを通したダイナミックな体験や遊びの広がりや深まりの実践を今後も「科学する心」と相対させながら、他園へも発信していただけることを期待します。